

## コミュニティジム×カフェから広がる新しいスポーツカルチャー

私たちは、スポーツや運動が目的ではなく、生活の一部に自然と溶け込むルーティンやストレス発散のような存在になることを望んでいる。誰もが人の目を気にせず自分がしたいように行動し過ごせる空間を作りたい。本提案は、そんな空間を若者が多く集まる大学のキャンパス内に生み出し、在学生はもちろん、多世代の地域住民だれもが気軽に楽しめる「まちの拠点」を、大学を中心にコンソーシアム型で創造する取り組みである。そのコンセプトは、「BE YOUR BASE -anyone, anytime, any way you want-」コミュニティジム×カフェの共創空間を、あくまでも学生による自主運営で営み、学生が声を上げながら現状の学生生活や運動やスポーツ・健康というものの捉え方を変え、新しい大学の在り方やまちとのかかわり方をそれぞれが見つけ出していくものである。そして、それらを他のキャンパスに拡張させながら持続可能なまちづくりの実現を目指す。

### 1. 提案の背景 米サンディエゴ州立大学Aztecs Recreation Center訪問 (2025年2月本学研修)

日本との1番の差はキャンパス内に一般学生も使えるジムがあること

フィットネスジムだけでない複合施設  
男女関係なくトレーニングできる  
オープンさ

生徒達が集まる場ならではの雰囲気・静かすぎない

ウエイトトレーニングだけでないボルダリングやバスケットボールなど

「スポーツ」と「遊び」が共存する環境

様々な用途で使える施設があることでその時の自分の  
周りの目を気にせず  
“自分”にスポットライトが当たっている

カレッジを実際に訪問し、「スポーツ」の概念の認識の違いを痛感  
競う、鍛える、苦しさを伴うことだけがスポーツではない！  
それぞれの体型を持ち、着たい服を着ている！

ダイエット意識も特に女子学生高い  
現在の自分に自信が持てず周りが気に入り、  
運動をすることに消極的

日本では？

若者世代は自分や他人の容姿に高い意識を持つ  
彼らのためのスポーツ施設が  
少なすぎるのでは…？

1人ひとりそれぞれの体型や求めるスタイルを尊重する文化を  
誰もが周りの目を気にせず、自分のために行動できる環境が欲しい

### 2. 現状のキャンパスおよびその周辺の課題

学生にテナント・メニューの決定権なし

テナント撤退

営業時間短縮

地域治安悪化

遊休地の増加

入学者現象  
不本意入学増加  
退学者増加

行き場のない学生たち  
13時には売切れ続出  
14時には閉店

やる事のない学生たち

学業への影響は？

学内治安悪化

でも、運動部施設は充実へ

【少子化の波に飲み込まれるわが国の閑散とするキャンパスとその周辺】

**キャンパスワークライフバランスの再構築**

「ワーク・バランス」とは、「仕事」と「育児、介護、趣味、学習、休養、地域活動など、仕事以外の生活」の調和がとれた状態のこと。この調和により、仕事も生活も充実させ、心身の健康や働きがい高めることを目指す。個々の価値観やライフステージに合わせて多様な働き方・生き方を選択できる社会の実現が目的。キャンパス内においても、「学業」と「学業以外の生活」の調和が重要である。本提案では、その土台となる「コミュニティジム×カフェ」を学生の自主運営によって営むとともに、地域内での協創によるコンソーシアム経営を目指すものです。

### 3. 提案 ジム×カフェ BE YOUR BASE ~Anyone, anytime, any way you want~

見た目もペースも自分らしく、自分がやりたいことを周りを気にせずできる、居られる空間(環境)の提供

<p><b>Why</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般学生が使えるジムが無い</li> <li>▶ 若者が集まる場所なのに？</li> <li>フィットネスクラブのデメリット</li> <li>▶ 月額が高い、距離が遠い、</li> <li>▶ トレーニーが多い、</li> <li>▶ 一人で行く緊張感など行きたくても行きづらい</li> </ul>	<p><b>Wants</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同年代の若者が集まる大学</li> <li>▶ 気軽に利用できる空間</li> <li>生徒数減少による空き施設の増加</li> <li>▶ ジムやカフェの設置で有効活用</li> <li>目的が「ジムに行く」ではない</li> <li>▶ スポーツの継続が期待</li> </ul>	<p><b>Target</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運動に苦手意識</li> <li>ジムに一步踏み出せない</li> <li>自分の見た目や意志の弱い</li> <li>いろいろな気になりスポーツから逃げてきた人???</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

大学内にコミュニティジム(様々なスポーツをする場)を設置し、その中心にカフェ(リラックスしてつづげる場)を配置

必ずしもジムに行くことが目的じゃなくていい、併設されたカフェで過ごすことで「ジムでトレーニング」することの心理的ハードルを下げる

運営モデル: 学生たちの自主運営経営と他キャンパスとの共創によるコンソーシアム型モデルへ



- 【八王子キャンパスワークバランスコンソーシアム(仮称)】
- ▶ 学生たちによる自主運営: 資金調達からテナント営業、店舗運営など全ての経営を担う
    - ・時間帯によって様々な顔(テナント)を持つ、メニューに話題性、普通メニューと健康志向メニュー他
    - ・近隣飲食店との協業(朝帯はパン屋、昼は日替わり弁当、午後はアサイーボウルやクレープ、夜は地元居酒屋による間借り営業など)
    - ・購入したら実店舗で使える割引クーポン配布で地域活性化も
    - ・健康志向メニューはスムージーやプロテイン系はもちろん低カロリー、低糖質などのラテなども販売
    - ・運動の有無に関わらずだれもが楽しめる、おいしくて体にやさしいメニュー、地元食材使用で地産地消
  - ▶ 地域連携型プロポーザル方式による空間活用
    - ・ミッションに賛同する地元とのコラボ企画、母校が「ム」の「パブリックビューイング」などスポーツ観戦の空間貸し
  - ▶ スチュワードシップによる資金調達
    - ・地域のまちおこしと学生支援に賛同する企業・飲食店・個人事業主とのスポンサー契約へ